

目標項目一覧・目標値達成度

達成度の基準

◎…策定時の目標値まで達成した ○…策定時の目標値には達していないが、改善した

△…策定時値と比較してほぼ変化がない ×…策定時の値と比較して悪化した

栄養・食生活		策定時の値	現状の値	目標値	達成度	備考	出典
食生活に気をつけている人の増加							
<栄養素(食物)の摂取>							
食塩を控えている人の割合		30%	—	57%	—		1
野菜を多くとるようにしている人の割合		54%	—	78%	—		1
脂肪の多い食べ物を控えている人の割合		32%	—	59%	—		1
カルシウムの多い食品をとるようにしている人の割合		40%	—	62%	—		1
<食生活の方法>							
腹八分を気をつけている割合	全体 男女	—	68% 64% 70%	70%	—	新規(注1)	4
バランスよい食事をとっている割合	全体 男女	—	56% 51% 61%	60%	—	新規(注2)	4
間食を控えている人の割合		37%	—	50%	—		1
食事は決まった時間に食べている人の割合		59%	—	81%	—		1
1日3食食べている割合	全体 男女	80%	80% 76% 84%	92%	△		14
朝食を抜くことが多い割合 (20～30代男性、20代女性)	20～30代男性 20代女性		27% 25%	24%	—	新規(注3)	4
朝食を毎日食べている幼児の割合 (1歳6ヶ月児)		96%	95%	100%	△		7・8
朝食を毎日食べている児童・生徒の割合	小学生 中学生	87% 68%	— —	100% 100%	— —		9
1日のうちで1回は30分以上かけて食べる割合 (策定時 複数選択質問の選択肢のひとつ) (中間評価時 単独質問)	全体	19%	49%	増加		目標値 変更 (注15)	1・4
家族や友人と共に食事をする割合	全体	共に51%	一日1回は85.1%	増加		目標値 変更 (注16)	1・4
食品購入や外食時に栄養成分表示を利用している割合	全体 男女	34% 21% 43%	39% 25% 52%	48%	○		1・4
ジュース、スポーツ飲料を毎日一回以上飲用している人の割合		27%	—	11%	—		1
学習会などで食の安全について学んだことのある人の割合		43%	—	75%	—		25
郷土料理や地域の食材を食べている割合	全体	36%	50%	増加	○		4・25

栄養・食生活		策定時の値	現状の値	目標値	達成度	備考	出典
適正体重を維持している人の増加							
正常域の体重を維持している人の割合 (BMI18.5以上25.0未満)		69%	68%	76%	△		10・11
肥満者の割合 (BMI25.0以上)		22%	24%	18%	×		10・11
児童、生徒の肥満傾向の者の減少							12
小学校		9%	—	7%	—		
中学校		9%	—	7%	—		
栄養素の適正な摂取に配慮している店の増加							
カロリー、栄養成分表示の表示をしている飲食店の割合		11%	11%	増加	△		3・6
商品を仕入れる際に健康に配慮している飲食店の割合		62%	—	増加	—		3
健康的な料理を提供している飲食店		42%		増加			3・6
	塩分控えめ		37%				
	エネルギー控えめ		7%				
	カルシウムたっぷり		9%				
	野菜たっぷり		47%				
	量の選択可		31%				
食生活改善のための学習の機会がある人の増加							
食生活の改善について学ぶ機会がある割合	全体	26%	26%	42%	△		1・4
従業員が学習機会を得ることのできる事業所、飲食店		18%	—	増加	—		3

身体活動・運動		策定時の値	現状の値	目標値	評価	備考	出典
健康の維持、増進のために意識的に身体を動かしている人の増加							
健康の維持、増進のために意識的に体を動かしている人の割合		70%	—	94%	—		25
外出について積極的な態度を持つ高齢者の割合		39%	—	70%	—		26
何らかの地域活動を実践している高齢者の割合		52%	—	58%	—		26
土曜日、日曜日に外で遊ぶ児童、生徒の割合	小学生 中学生	71% 80%	— —	増加	—		27
外遊びしている幼児の割合 (1日1時間以上の外遊びをしている割合)		64%	48%	増加	×		7・8
運動習慣のある人の増加							
定期的に運動している人の割合	全体 男 女	17% 19% 16%	26% 28% 24%	39%	○		1・4
ウォーキングをしている人の割合	全体	16%	—	32%	—		1

休養・こころの健康づくり		策定時の値	現状の値	目標値	評価	備考	出典
ストレスをよく感じる人の減少							
ストレスをよく感じる人の割合	全体	37%	43%	37%	×	目標値変更(注17) (策定時目標値14%)	1・4
ストレスの解消ができていない人の増加							
ストレスの解消ができていない人の割合		69%	—	76%	—		1
ストレスを感じたとき、相談できる人、場所がある人の割合(男性)		—	67%	増加	—	新規(注4)	4
睡眠で休養が十分とれている人の増加							
睡眠で休養が十分とれている人の割合		77%	—	89%	—		1
睡眠確保のために睡眠補助剤やアルコールを使う人の割合		26%	—	10%	—		1
自殺者の減少							
自殺者の減少		130人 (平成12年)	132人 (平成17年)	減少	×		13・14
こころの健康に関心を持っている人の割合		78%	—	97%	—		25
事業所でのメンタルヘルス							
従業員が「うつ」の正しい知識を学ぶ機会がある事業所の割合		—	4.0%	増加	—	新規(注5)	5
管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合		—	8.1%	増加	—	新規(注6)	5

たばこ		策定時の値	現状の値	目標値	評価	備考	出典
喫煙者の減少							
喫煙している割合	男	50%	36%	減少	○		1・4
	女	12%	11%	減少	○		
喫煙者中の禁煙の意思あり	全体	46%	52%	69%	○		1・4
	男	41%	48%				
	女	60%	62%				
禁煙治療、ニコチンパッチの医療保険適用を知っている割合	全体	—	42%	増加	—	新規(注7)	4
妊婦で喫煙習慣のある人の割合		6%	4.4%	0%	○		15・16
未成年の喫煙者をなくす							
未成年で喫煙を開始した人の割合		42%	—	0%	—		1
分煙の徹底と知識の普及							
たばこの煙が周囲の人の健康に及ぼす影響を知っている人の割合		91%	—	95%	—		1
分煙できている人の割合		21%	—	67%	—		25
終日禁煙に取り組んでいる事業所の割合	終日禁煙	4.7%	20%	25%	○	新規(注8)	2・5
		(参考) 禁煙・分煙に取り組んでいる事業所 32%	70% { 終日禁煙20% 完全分煙22% 不完全分煙28%				
終日禁煙に取り組んでいる飲食店の割合	終日禁煙	—	27%	30%	—	新規(注9)	3・6
		参考: 禁煙(分煙含む)に取り組んでいる飲食店 33%	49% { 終日禁煙20% 完全分煙5.2% 不完全分煙16%				
健康増進法において、受動喫煙防止対策が定められていることを知っている飲食店の割合		—	49%	増加	—	新規(注10)	6
分煙を実施している公共施設の割合		79.7%	—	100%	—		28

アルコール		策定時の値	現状の値	目標値	評価	備考	出典
多量に飲酒する人の減少							
多量飲酒者の割合(3合以上)	男	4.2%	4.8%	3.3%	×	目標値変更(注18)	1・4
	女	0.4%	0.9%	0.3%	×		
未成年の飲酒者をなくす							
未成年で飲酒を開始した人の割合		31%	—	0%	—		1
妊婦の飲酒者をなくす							
妊婦で飲酒をしている人の割合		20%	4.1%	0%	○		15・16
事業所							
従業員が「アルコール依存」について学ぶ機会がある事業所の割合		—	3.7%	増加	—	新規(注11)	5

歯の健康		策定時の値	現状の値	目標値	評価	備考	出典
歯の健康について心がけている人の増加							
年1回以上歯磨きの指導を受けている人の割合	全体	6%	12%	12%	○		1・4
	男	5.0%	7.8%				
年1回以上歯科健診を受けている人の割合	全体	19%	26%	30%	○		1・4
	男	16%	21%				
年1回以上歯石除去を受けている人の割合	全体	16%	24%	30%	○		1・4
	男	14%	20%				
歯間ブラシ・糸ようじ・デンタルフロスなどを使用している人の割合	全体	25%	32%	50%	○		1・4
	男	19%	24%				
フッ素入り歯磨き剤を使用している人の割合	全体	30%	—	45%	—		1
	男	32%	—				
フッ素入り歯磨き剤を使用している児童、生徒	小学生	74%	—	90%	—		27
	中学生	77%	—				
砂糖などの糖分を含む嗜好品・飲料は1日1回以下しかとらない割合	全体	7%	8.7%	13%	○		14
	男	6.9%	7.4%				
ガムやあめはシュガーレスのものを食べるようにしている人の割合	全体	14.4%	16%	21%	○		14
	男	11.6%	12%				
女	17.4%	19%					
	むし歯のない乳歯を持っている児の増加						
むし歯のない幼児の割合(3歳児)		68%	74%	80%	○		17・18
フッ素塗布を受けている幼児の割合(3歳児)		42%	52%	60%	◎	目標値変更(注19)	17・18
1日あたり3回以上の間食をする幼児の割合(3歳児)		24%	25%	減少	△		17・18
むし歯のない永久歯を持っている人の増加							
12歳児の1人平均むし歯数	中1 小6	1.87本 1.35本	1.29本 0.75本	1本以下	○	中学1年生のデータに変更(注21)	19・20
フッ素洗口を実施している児童、生徒の割合		4小学校	9小学校 (3幼稚園)	40校以上	○		21
歯周疾患のない人の増加							
進行した歯周炎		40歳 48%	40-42歳 53% 50-52歳 58%	減少	×	目標値変更(注20) (策定時目標値 22%)	22・23
歯周疾患のある児童 生徒		4%	2.6%	減少	○		19・20
		6%	8.0%	減少	×		
80歳で自分の歯を20本以上保っている人の増加							
60歳以上で自分の歯を24本以上保っている人の割合		51%	—	増加	—		1

		策定時の値	現状の値	目標値	評価	備考	出典
健康状態がよいと感じる人の増加	全体	—	76.9%	78% (H22年)	—	新規(注12)	24
地域の「健康づくり運動」に参加している人の増加	全体	—	16.5%	20% (H22年)	—	新規(注13)	24
地域活動に参加	全体	—	36%	増加	—	新規(注14)	4
	男	—	32%				
女	—	40%					

新規追加項目について

注	項目内容	追加理由
1	腹八分を気をつけている割合	健康的な食生活で重要な量とバランスをみる指標が今まで無かったため
2	バランスよい食事をとっている割合	
3	朝食を抜くことが多い割合(20～30代男性、20代女性)	日中活動する上での脳や身体のエネルギーとして朝食は大切だが、特にこの性・年代が朝食欠食の割合が高いため
4	ストレスを感じたとき、相談できる人、場所がある人の割合(男性)	相談先があることが、ストレスへの対応のひとつの手段となる。特に男性で割合が低かったため、男性のみを取り上げた。
5	従業員が「うつ」の正しい知識を学ぶ機会がある事業所の割合	『事業場における労働者の心の健康づくりのための指針』(平成12年8月)において、労働者が自らストレスへの気づきや対処できるように教育研修を行うように、また管理監督者が職場環境の改善や労働者の相談対応を行うように示されている。働き盛り世代の大きな課題である「こころの健康」には職場での取り組みが大いに関係すると思われる。
6	管理監督者が「部下のこころの健康」について学ぶ機会がある事業所の割合	
7	禁煙治療、ニコチンパッチの医療保険適用を知っている割合	有効な禁煙方法としてニコチンパッチ貼付があり、その認知度を上げることが重要であるため
8	終日禁煙に取り組んでいる事業所の割合	禁煙・防煙の環境整備の指標となる。策定時は禁煙と分煙を区別していない目標設定だったため、「終日禁煙」というより限定した目標項目を設定した。目標値は現状の約2割増の値とした。
9	終日禁煙に取り組んでいる飲食店の割合	
10	健康増進法において、受動喫煙防止対策が定められていることを知っている飲食店の割合	飲食店の健康増進法第25条(受動喫煙防止)の認知が、受動喫煙防止対策につながるとされるため
11	従業員が「アルコール依存」について学ぶ機会がある事業所の割合	多量飲酒者は働き盛り世代に多く、職場での啓発が有効な対策と思われるため
12	健康状態がよいと感じる人の割合	後期は健康を自覚できる人の増加を上位の目標としている。岡山市の都市ビジョンに増加目標として掲げられている。
13	地域の「健康づくり運動」に参加している人の割合	岡山市の都市ビジョンに増加目標として掲げられている。
14	地域活動に参加している人の割合	健康づくり以外の地域活動も地域の活性化につながり、地域の健康度に影響するため

目標値変更項目について

注	項目内容	変更理由
15	1日のうちで1回は30分以上かけて食べる割合	前回の調査票では複数選択肢のひとつで、今回の調査票では単独質問だったので、該当率が大きく異なった。単純な比較が出来ないため、目標値は「増加」と変更した。
16	家族や友人と共に食事をする割合	前回の調査票では複数選択肢のひとつで、今回の調査票では単独質問だった。また前回調査では「共に食事をする」、今回調査では「1日一回以上は食事をする」という質問文だった。そのため該当率が大きく異なった。単純な比較が出来ないため、目標値は「増加」と変更した。
17	ストレスをよく感じる人の割合	14%への減少という目標に反し、割合は増加していた。またストレスは年代によって感じる割合が非常に異なり、目標値にした値(前回調査時に最もよい値だった70代以上男性の割合)への到達はまず不可能と考えられる。よって策定時の割合(37%)に戻すことを目標とした。
18	多量飲酒者の割合(3合以上)	健康日本21の同項目の目標(現状値の2割減)を参考に、健康市民おかやま21策定時値の2割減を目標値とした。
19	フッ素塗布を受けている幼児の割合(3歳児)	中間評価までの5年間で10%アップし、既に目標値(50%)に達成していた。そのため今後5年間でさらに約10%アップとなる目標値を60%とした。
20	進行した歯周炎	22%への減少という目標に反し、割合は増加していた。「進行した歯周炎」は厳しい基準で定義され、目標値への到達は不可能と考えられる。そのため目標値は「減少」と変更した。

参考値変更項目について

注	項目内容	
21	12歳児の1人平均むし歯数	小学6年生の値を指標としていたが、健康日本21で指標としている中学1年生の値に変更した。

削除項目について

	項目内容	削除理由
	高齢者 日常生活における歩数	歩数を知っている人は大多数が運動に関心のある人と考えられ、市民全体を反映しているようなデータを取ることが不可能なため削除した。
	日常生活における歩数	
	分煙を実施している事業所・飲食店	禁煙・防煙の環境整備の指標として、「終日禁煙」の事業所・飲食店という目標項目を新規設定したため、この2項目は削除した。
	禁煙(分煙含む)に取り組んでいる飲食店	

番号	出典
1	市民の健康づくり・生活習慣に関するアンケート(市民)(平成13年)
2	健康づくりに関するアンケート(事業所)(平成13年)
3	健康づくりに関するアンケート(飲食店)(平成13年)
4	健康市民おかやま21 中間評価アンケート(市民)(平成19年)
5	健康市民おかやま21 中間評価アンケート(飲食店)(平成19年)
6	健康市民おかやま21 中間評価アンケート(事業所)(平成19年)
7	育児環境調査(平成12年度)
8	育児環境調査(平成18年度)
9	児童生徒の家庭における日常の食生活などの調査(平成8年)
10	基本健康診査(平成12年度)
11	基本健康診査(平成18年度)
12	岡山市学校保健統計調査(平成13年度)
13	岡山市保健衛生年報(平成14年度)
14	岡山市保健衛生年報(平成19年度)
15	妊娠届出時アンケート(平成13年度)
16	妊娠届出時アンケート(平成18年度)
17	3歳児健診(平成13年度)
18	3歳児健診(平成18年度)
19	学校保健概要(平成13年度)
20	学校保健概要(平成18年度)
21	岡山市保健所で把握
22	歯周疾患検診(平成13年度)
23	歯周疾患検診(平成18年度)
24	市民意識調査(平成17年度)
25	市民アンケート調査(平成16年)
26	高齢者保健福祉計画に係るアンケート調査(平成16年)
27	小・中学校に対するアンケート調査(平成17年)
28	状況調査(平成15年)